

はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」

第5回 実行委員会(意見交換会)

第5回 実行委員会 (意見交換会) を開催しました。

平成 24 年 2 月 27 日、近畿地方整備局 第一別館2階 大会議室において、はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」第5回 実行委員会(意見交換会)を開催しました。

平成 23 年度における「はなやか関西～文化首都年～2011」の実施成果と課題について、実行委員会で議論するとともに、継承・継続に向けた今後の方向性について検討しました。本実行委員会のファシリテーターは、文化首都年のアドバイザーである寺本 益英氏(関西学院大学経済学部 教授)、岩崎正彌氏(皇學館大学現代日本社会学部 伝統継承文化創造コース 准教授)に務めていただきました。取組参加団体からは活発な意見をいただきました。



【開会】



実行委員会委員長 堀井 良殷 氏
(財団法人大阪 21 世紀協会理事長)

委員会は実行委員長による挨拶で開会しました。

はなやか関西文化首都年の初年度「茶の文化」が無事、終わりつつある。皆様の絶大なご尽力、感謝申し上げます。こうした取組は、達成感と消化不良の両方が必ず残るものである。初年度のキックオフという位置づけで開催したが、これを機に今後、どうやっていくかが問われる。何ができたのか、何ができなかったのか、将来に向けてどうするのかということを検証したい。

歴史的な事業に仕立てあげないといけない。3年、5年とやっていくうちに定着していく。歴史上に名を残す取組にしていくべきだと思う。そこへ向けて、今後の取組をつなげていかなければならない。本日は総括ということで、成果をまとめていきたいと思う。



アドバイザー 寺本 益英 氏
(関西学院大学経済学部 教授)

続いて寺本アドバイザーにご挨拶いただきました。

私は学生時代から茶に愛着を持ち、経済史・文化史・フードシステムの視点から研究を続けてきた。茶の歴史は平安時代から数えると1200年に及ぶ。しかし最近は産業としての茶業に元気がない。また経済効率第一主義が強調され、日本人が心のゆとりを失ってしまったことから、喫茶文化も曲がり角に直面している。何とかしなければならないと思っていた。近畿の喫茶文化と茶業振興を目指し、個別の取組を1つに束ねて情報発信していく必要性を感じていたが、今回それがはじめて実現し、意義深い1年となった。参加団体の支援があったからこそである。大変うれしく思っている。うまくいった点、改善点など色々意見があると思うが、それらの共有が大切である。次年度以降さらに発展させていくためには、どうすればよいのか、活発な議論をお願いしたい。



アドバイザー 岩崎 正彌 氏
 (皇學館大学現代日本社会学部
 伝統継承文化創造コース 准教授)

続いて岩崎アドバイザーにご挨拶いただきました。

この1年、茶の文化を関西からと言うことで取り組んできた。横のつながりや未来へのアイデアを出してもらおうというのを楽しみにしてきた。私自身は中村昌生先生の、非公開茶室の見学のサポートを務めさせていただいた。高い倍率の抽選で、人気があった。「日本の茶の文化」を通じて、素晴らしい国づくり、地域づくり、人づくりをやっていきたい。伝統を継承し、文化を創造していきたいと思う。

【取組参加団体の活動紹介 (リレートーク)】

46の取組参加団体を代表して、10の取組参加団体がリレートークというかたちで、「はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」」に関する、それぞれの取組内容を紹介しました。

【発表団体 (取組参加団体)】

- ① 第38回「堺まつり」利休のふるさと堺大茶会(社団法人 堺観光コンベンション協会)
- ② 京都宇治 和東茶フェア(和東町)
- ③ 伝統体験講座「池田炭づくりと茶の湯」(NPO法人シニア自然大学菊炭クラブ)
- ④ 万博日本庭園茶室で「お茶」の世界へショートトリップ(独立行政法人 日本万国博覧会記念機構)
- ⑤ 第26回 国民文化祭・京都2011「大茶会」(第26回国民文化祭京都府実行委員会)
- ⑥ 民芸と茶(財団法人 大阪日本民芸館)
- ⑦ 「関西大茶会」野点席(大阪府高等学校芸術文化連盟茶道部門(府立阿倍野高校・府立大手前高校・大阪桐蔭高校・追手門学院大手前高校) 茶道部会事務局)
- ⑧ 「お茶による生活習慣病の予防効果について」(大阪市立大学大学院生活科学研究科食・健康科学講座 准教授 小島 明子氏)
- ⑨ 「関西3大学 熊野古道の茶文化:テーマ『世界遺産地域のお茶文化一和歌山県田辺市本宮町を調査地として』」(大阪観光大学観光学部専任講師 峯俊 智穂氏)
- ⑩ 「関西3大学 熊野古道の茶文化:テーマ『観光教育』」(立命館大学自主ゼミ「地域観光学研究会」文学部3年生 大島 知典氏)



【平成23年度モデル事業に参加した成果について】

「はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」」に関する成果について話し合いました。

【成果に関する意見概要】

- モデル実施として、各プログラムともに一定の成果を残せた
- 来訪者に「関西の文化」を知ってもらいきっかけとなった
- 地域のネットワーク形成に大きな成果があった
- 学生の発表・成長の場としての成果もあった

【平成24年度以降の課題及び解決策について】

「はなやか関西～文化首都年～2011「茶の文化」」に関する課題及び解決策について話し合いました。

【課題】

- はなやか関西の関西全体への取組の広がり面で課題
- 茶の文化のコアなファンだけでなく、すそ野を広げることが重要
- 「茶の文化」の取組を通じて形成されたネットワークの継承・継続が大きな課題

【解決策】

● 持続可能な形で取組参加団体のネットワークを継承する

取組参加団体、学生参加団体、堀井実行委員会委員長、寺本アドバイザー、岩崎アドバイザーから、引き続き「茶の文化」に関するネットワークの継承の希望がありました。ただし、組織を立ち上げ継承することは現段階では困難であるため、まずは持続可能な形でネットワーク継承から始め、徐々に強固な体制への移行を試行することとしました。

● 今年度の反省を次年度の取組に活かす

今年度の取組の反省点を、次年度の「人形浄瑠璃」をテーマとした取組に活かし、はなやか関西の取組としてステップアップしていくこととしました。



【閉会】